

令和7年度学校経営計画

令和6年度～8年度

校番	1	学校名	呉市立呉高等学校	校長氏名	廣本 幸紀	全日制	本校
----	---	-----	----------	------	-------	-----	----

1 教育目標

地域課題の解決に貢献し、持続可能な社会の担い手として新たな価値を創造する、心豊かでたくましい人材を育成する。

2 三つの方針

① 育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）

深い学びを実現するために、身に付けた知識・技能を活用できる。【知識・技能】【発信力】
 目標の実現に向け、課題を解決するために、不断の努力ができる。【思考力】【課題解決力】
 「自立」と「自尊」の精神で主体的に学び、他者と協働して社会貢献できる。
 【持続可能な社会への意識】

② 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

一人一人の進路選択に必要な教科・科目を主体的・効率的に学習できる。
 興味・関心のある分野の教科・科目を主体的に探究・表現する力を育成できる。
 進路実現に向けて主体的・協働的に学びをデザインできる。

③ 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

「高き夢をいだけ そして 君が夢みた君になれ」という本校のスローガンに共感し、学業はもとより、部活動や課外活動にも積極的に取り組むことのできる、主体的・協働的な学習者を受け入れる。

3 中期（3年間）経営目標及び行動計画等

中期(3年間)経営目標	評価指標	目標値	実績値	
			初年度	次年度
希望する進路の実現を可能にする確かな基礎学力を身に付けさせる。	第1 志望達成率	85%	95.6%	83.3%
総合学科の特色を生かした学びの広汎な展開により、課題発見・解決能力を高める。	身に付けさせたい力の伸長に対する自己評価	1年60% 2年70% 3年80%	1年81% 2年75% 3年88%	1年65% 2年78% 3年83%
生徒の規範意識や社会性を高め、自立した社会人としての資質・能力を身に付けさせる。	規範意識に対する肯定的評価	90%	99%	99%

4 短期（本年度）経営目標及び行動計画等

中期（3年間）経営目標

（1）希望する進路の実現を可能にする確かな基礎学力を身に付けさせる。

短期(本年度)経営目標	本年度行動計画	評価指標	現状値	目標値
自律的学習習慣の確立	学習時間調査による家庭学習の定着	Classiの学習時間入力状況	94%	95%
基礎的・基本的な学習内容の定着と活用能力の向上	授業における基礎的・基本的な知識・技能の活用	第1志望進路に必要な偏差値基準を達成した生徒	1年 -	30%
			2年 -	60%
	授業における基礎的・基本的な知識・技能の定着	定期考査または小テストの「知識・技能」の問題の正答率60%以上の生徒	54.2%	70%
希望進路の実現	組織的進路指導体制の構築	第1志望達成率	81%	85%
	個別指導体制の強化	国公立大合格者数	10名	12名
授業改善の積極的推進	発問の工夫・ICT機器の活用を取り入れた授業展開	授業アンケート最肯定の割合	76%	70%
	発問の工夫・ICT機器の活用を取り入れた授業展開	授業改善の研修や資料提供の回数	1回	3回
業務改善による生徒と向きあう時間の確保	定時退庁の実施率向上と年休取得の推進	勤務時間外在校時間月平均45時間以内の教職員の割合	52%	70%

中期（3年間）経営目標

（2）総合学科の特色を生かした学びの広汎な展開により、課題発見・解決能力を高める。

短期(本年度)経営目標	本年度行動計画	評価指標	現状値	目標値
E S D・S D G sの視点を取り入れた教育内容づくりの推進	「産業社会と人間」ライフプラン策定、「フロンティアⅠ・Ⅱ」の体系的指導	意識調査の「身の回りのことや社会の課題の解決策を考えている」の肯定的評価の割合	1年59% 2年71% 3年80%	1年60% 2年70% 3年80%
特色ある学校設定科目の教育内容の充実	「防災」選択者の「防災リーダー」としての育成	選択者の校内外での活動回数	6回	5回
	「呉学」「看護基礎」「福祉基礎」「子ども文化」「調理2」における専門機関とも連携した高度な教育内容の提供	専門機関等との連携回数	18回	15回

生涯学び続ける意識の醸成	資格取得の促進	合格率	80%	80%
	読書習慣の確立	学級内で年間5冊以上読んだ生徒の割合	-	50%
グローバルに活躍する人材の基礎の醸成	姉妹校との相互交流によるグローバルマインドの向上	姉妹校との相互交流の回数	6回	3回
	異文化理解促進のための交流の場の積極設定	異文化理解に繋がる実践の回数	4回	3回

中期（3年間）経営目標 （3）生徒の規範意識や社会性を高め、自立した社会人としての資質・能力を身に付けさせる。				
短期（本年度）経営目標	本年度行動計画	評価指標	現状値	目標値
規範意識や社会性を高める	時間・期限への意識を高める	1日の遅刻者数	1.71人	1.50人
	ルールの意味を考え尊重する意識を高める	特別な指導の回数 （携帯電話によるものを除く）	16回	10回
		生徒の規範意識に対する肯定的評価	99%	95%
生徒支援の体制の拡充	教育相談活動を充実させる	教育相談に対する肯定的評価	92%	90%
	困り感のある生徒への具体的支援	困り感のある生徒の現状及び支援計画の全体共有をはかる研修の回数	3回	3回
部活動の充実により、活動実績を向上させる	部活動による学校生活の充実	部活動加入率	86%	85%
	適切な目標設定と計画的活動により部活満足度を高める	中国大会以上の大会等への出場、県大会ベスト8以上への進出、またはそれに準ずる成績を収めた部活動数	4団体	5団体
		部活動への取組に対する肯定的評価	85%	85%
貢献の意識の醸成	ボランティア活動への積極参加と「学び」への連結	ボランティア活動への延べ参加者数	497人	400人
		自尊・貢献に対する肯定的評価	90.4%	70%

別紙:現状分析

外部環境	O (支援的要因) ①小・中学校, 高等専門学校, 大学等が隣接している。 ②PTAが学校に協力的である。 ③市呉の存在が市民から注目されている。 ④市内の各団体から支援を期待できる。	S (強み) ①総合学科の特性を生かし, 多様な選択科目を設定している。 ②挨拶, マナー, 時間厳守, 服装等の生活規律が徹底している。 ③地域・社会に貢献しようとする意欲が旺盛な生徒が多い。 ④部活動が活発で, 多くの部が上位大会進出を果たしている。 ⑤教育相談体制が整備されている。 ⑥本校への進学希望者が多く, 中学生からの支持を得られている。 ⑦「産業社会と人間」から「フロンティアⅠ・Ⅱ」に至る一連の取組が進路実現に有効である。	内部環境	「支援的要因と強みを生かす」 ○近隣の教育資源等の活用を促進する。 ○PTAと連携し, 協働して教育内容を創造する。 ○総合学科の特性とESDの研究指定の成果を生かして, 身に付けさせたい5つの資質・能力の育成を図ることにより, 生徒の進路実現につなげる。 ○生徒の学力の向上, 規範意識や社会性, 奉仕の精神を涵養する指導を充実し, 市民等から誇りに思われる生徒を育成する。 ○部活動の充実により, 自己肯定感を高めつつ, 活動実績へとつなげていく。
	T (阻害的要因) ①県立学校教員との人事交流が少なく, 教職員の年齢構成の偏りが解消されない。 ②情報不足や入手の遅れ等のため県立学校と帯同した動きが困難な場合がある。 ③生徒の多様な進路目標に対する対応力を高め切れていない。	W (弱み) ①高い目標を実現しようという意欲や態度を十分には育成できていない。 ②一般入試で求められるレベルまで基礎学力を高め切れていない。 ③家庭学習時間が少ない。 ④多様な選択科目の開設に必要な選択教室や実験・実習室等が不足している。		「阻害的要因と弱みを克服」 ○校内授業研究を充実するとともに他校の公開研究授業等に積極的に参加する体制を整える。 ○ESD・SDGsの視点を取り入れ「産業社会と人間」「フロンティアⅠ・Ⅱ」の系統性を高め, 学際的な深い学びを実現する。 ○個別指導の徹底とその支援体制を構築し, 進路実現につなげる。 ○学校の方針や情報等を積極的に発信する。 ○様々な機会を捉えて生徒・保護者に進路情報を提供し, 低学年次から段階的に進路意識を高める。

1 生徒の高い志や夢を実現する。

○総合学科としての特色を生かした教育活動の充実を図る。

- ・キャリア教育を柱に, 生徒一人一人が自立した社会人・職業人として将来を展望し, その実現のために必要な教科・科目を適切に選択できるよう, 教育課程を編成・実施する。
- ・地域社会の担い手としての素養を高め, 持続的発展が可能な社会の構築のために行動できる人材を育成する。その実現に向けて教育活動の体系化・構造化を図り, 「地域課題解決型キャリア教育」のカリキュラム開発と実践を行う。

○希望する進路を確実に実現できる学力を身に付けさせる。

- ・「広島版『学びの変革』アクション・プラン」に基づき, 主体的・能動的で学習者基点の深い学びを促進する授業づくりを行う。
- ・発問の工夫, ICT機器の活用, ESD・SDGsの視点を取り入れた授業改善を推進し, 生徒に自律的学習者としての意欲と態度を身に付けさせる。

○教科学習や部活動の成果として, 各種大会・コンクール, 資格取得等で全国レベルの実績をあげる。

2 地域の誇りとなり得る高校となる。

○生徒指導を徹底し, 自立した社会人としての規範意識や社会性を涵養する。

- ・全教職員で生徒指導規程の共通理解を図り, 統一的な指導を行う。
- ・学校生活において生徒指導の三機能を生かした指導を行う。

○ボランティア活動のさらなる充実を図り, 貢献の意識を醸成するとともに「学び」との連結を図る。

○学校情報を積極的に発信し, 保護者や地域の期待に応えるとともに, 本校の教育力を生かして, 小・中学校教育の充実・発展に寄与する。

○不祥事を許さない組織風土を醸成するとともに, 教育活動のあらゆる場面において, 生徒・保護者・地域から信頼される教職員の姿を示す。